

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	鳥取県立総合療育センター 児童発達支援センター のびっこワールド		
○保護者評価実施期間	2025年12月22日		2026年1月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	14	(回答者数) 9
○従業者評価実施期間	2025年12月17日		2026年1月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	9	(回答者数) 9
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月20日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	児童一人ひとりの発達状況と生活状況について確認、アセスメントを行い、本人と家族のニーズに沿った支援計画に沿って支援提供をしている	活動後には全スタッフ多職種で振り返り、個別に課題整理を行い、現在の発達状況を踏まえて次回の活動のねらいやアプローチを検討している また、定期的にKIDSやMEPA2等の発達検査を行っている 今年度からは、発達状況等に合わせたグループ活動も開始した 当センターの地域療育連携支援室の相談支援専門員との連携を強化し、家族支援や見学体験希望者への対応の質の向上にも努めている	丁寧な行動観察と適切なアセスメントに基づいて支援計画を作成、支援を実施し、保護者や関係者にも分かりやすいことばや形式で共有していく また、対象児童が居住する地域福祉や子育て支援機関、当センター相談支援専門員とも引き続き連携強化しながら地域の支援力及び受け入れ強化を図り、利用児の地域での暮らしがより充実するよう働きかけていく 更に、各種研修やエクステンジを通して職員のスキルアップを図り、「本人支援」「家族支援」「地域支援」の総合的なサービス、支援の向上を目指す
2	地域の障がい児通所支援事業に対するスーパーバイズ、コンサルテーションとして、定期的に西部圏域児童発達支援事業所情報交換会を開催している他、日野郡の保育士、保健師に向け発達に係る研修を行った また、米子市乳幼児健診やひのぐんぐん教室などへの同行、視察を通して、地域の気づきの段階にあるケースへの支援のあり方について調査、検討している	情報交換会では、地域事業所の専門知識や技術の発展、向上以外に、各事業所の紹介やグループワークなどを通して顔の見える関係づくりをすることで、円滑で充実した地域児童発達支援が実現できるよう働きかけており、参加事業所及び参加職種が年々増えている	地域の障がい児支援事業に対しスーパーバイズ、コンサルテーション機能を発揮するため地域へ出向くなどニーズ把握に努めるとともに、職員の外部への年間研修計画を立て、研修ファイルの活用や復命資料の振り返りを行いスキルアップに繋げていく
3	並行通園が7割を占めており、保育所や幼稚園等への地域療育等支援事業(園訪問)を実施することで、園の支援内容の確認、情報共有及び助言を行い、連携を図っている	必要に応じて地域療育等支援事業(園訪問・事業所訪問)を行い、保護者とも情報共有している 保護者に向けて保育所等支援事業の紹介を行い、対象となりそうな児童について、全職種、スタッフで検討している	地域療育等支援事業と保育所等支援事業をニーズに合わせ使い分けながら、関係機関との相互理解、連携強化を行うことで、対象児が安心して楽しく地域生活を送ることができるよう支援していく

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	年度毎の人事異動により担当者の変更があり、スタッフによって療育サービスの質や相談対応に必要な知識やスキルに大きく差がでないよう工夫していく必要がある	県立施設であり年度毎の人事異動による担当者の変更	スタッフ間のコンサルテーションや外部研修を通じた人材育成を行うと共に、切れ目のない関係機関との連携に努める 当センター相談支援専門員の通園部への出向を継続的にを行い、地域療育連携支援室とも連携強化を図る
2	危険予知や安全確保を予見し、対応を行う必要がある	危険を予知し、安全確保のため家族及び職員間で対応を行っているが、予想を超えるインシデントも起きており、0レベルのインシデントであっても対応が必要である	インシデント0レベルでの対策検討やKYT(危険予知訓練)を行い、職員の危険意識向上を図る
3			